

## 2024 支援困難事例検討研修会 S V 資料抜粋

～ 町田市障がい児者自立支援研究・研修会 ～

### 【事例検討 1】生活介護事業所

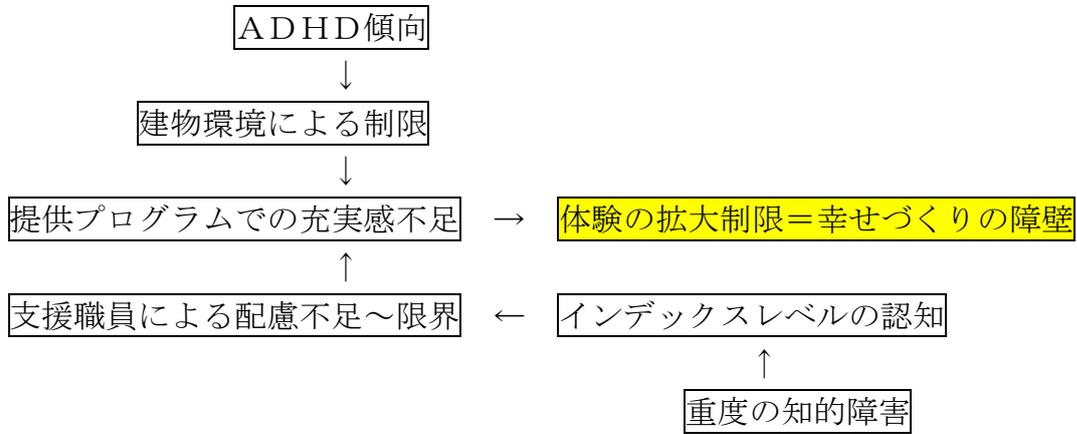
7月27日

「Bさんのコミュニケーションを理解するために」

(1) 事例の特徴

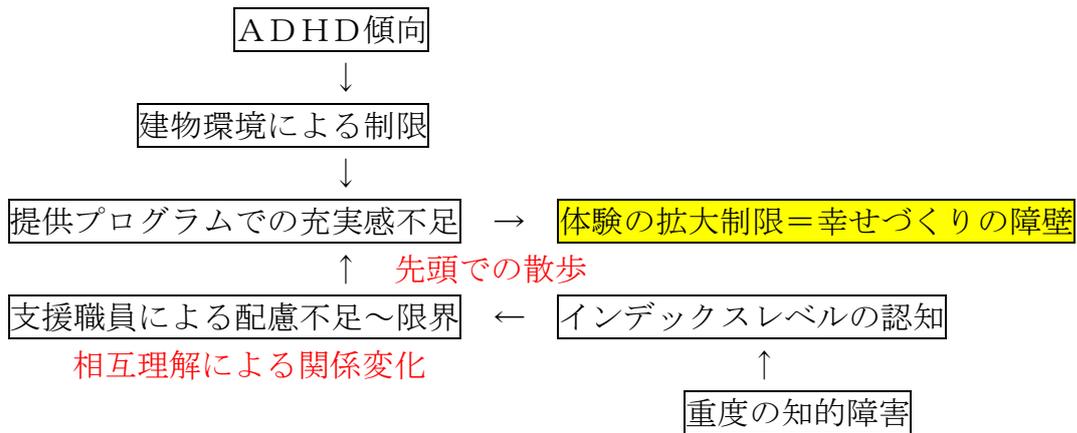
生理面		
男性、20歳代半ば	青年期	
知的障害愛の手帳2度		
自閉スペクトラム症		
多動	着席は持続しない	ADHD?
衝動性	飛び出しあり	注意転導性が高い?
服薬	口渇感→多飲傾向、かゆみ?	
アトピー		
自己刺激	壁・床たたき+頭部の自己刺激、嘔吐(反芻)	
心理面		
大切な人	父、母、妹	
トラウマ的エピソード	警察通報	
コミュニケーション	○か×を理解(他の言語での評価は困難)	
認知レベル	インデックスレベル(体験手順:工賃袋と買い物) +指差し+クレーン 写真理解	
対人関係	職員による差が出てくる 他者の頭の匂い嗅ぎ → チック?	
好きな事、得意	粗大運動(協調性運動は難しい)、はやり歌	
苦手な対人刺激	子供の泣き声、他利用者の怒っている声・泣き声で状態悪化 → 情動の伝播、聴覚過敏、タイムスリップ?	
利用している地域資源		
短期入所		
相談支援事業所		
言語の先生???		

(2) 幸せづくりの障壁が発生する基本構造チャートモデル

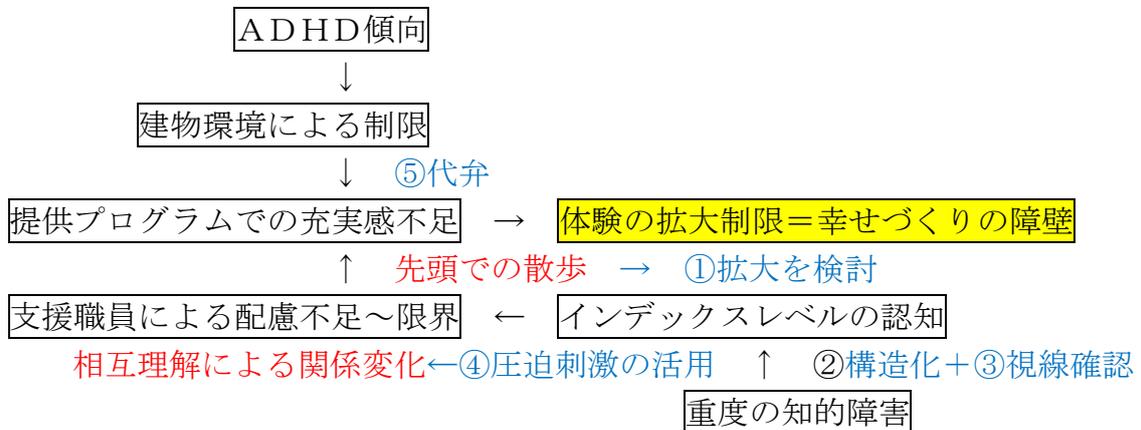


青年期における体験機会の拡大制限は幸せづくりの障壁

(3) 有効であった支援



(4) 今後の支援視点案



①既存のプログラムでの個別配慮（先頭散歩）の応用

粗大運動プログラムであるホール活動における個別配慮を検討  
運搬と評価「○」の活用

②構造化

インデックスレベルでの理解を前提に実物と行動手順を手掛かりにした  
パターンづくりを構造化の基本とする。

→支援職員で統一

③+④+⑤で職員とのより良い関係形成をめざし、体験機会の拡大支援へ

Bさんの③視線を手掛かりとすること

↓

Bさんの気持ちを⑤代弁する＝事前に「せりふ」は考えておく。

↓

Bさんの状態を見ながら④圧迫刺激を試してみる

↓

関係の変化をケース記録に記載する

**10月26日**

他のケースに応用可能な視点を示してあります。

**1 標準的な「状態に応じた支援モデル（クライシスプラン）」の応用**

状態	判断指標	NG支援	おすすめ支援
4 良い			
3 普通			
2 やや悪い			
1 悪い			

(1) 「NG支援」と「おすすめ支援」に活動と個別支援の視点

第2回目レポートの追加資料に①状態指標と②状態に応じた支援方法と活動プログラムが記載されています。支援について個別支援上の配慮と活動プログラムの視点で整理している点は、通常のクライシスプランの内容をより発展させたスタイルと言えるでしょう。

## (2) 状態判断期間の視点

状態変動をどの程度の期間で判断することが有効なのかはケースバイケース。

季節、月、週、日、午前午後だけではなく、瞬時に指標をキャッチして判断する必要がある場合もあります。このケースは、どの程度の期間で指標を把握し、支援内容を判断すること有効なのでしょうか。

大うつ病エピソード

1～2か月間なので、週単位での比較と日内変動を把握するため午前午後が有効と思われます。しかし、ラビットサイクラーのように頻繁に変動するケースもあります。

交感神経系が優位になる状態と優位ではない状態との相違を判断できる指標

交感神経系が優位：嘔吐、発汗、頻尿、顔面蒼白・・・チック？

## 2 状態理解の視点

近感覚にもとづく活動 ～ 遠感覚に基づく活動へ発達していきます。

近感覚 = 筋感覚 (自己受容感覚)、前庭感覚、触覚、味覚、嗅覚

この事例 = 物を叩く、走る、水飲み、反芻・嘔吐、飲食

遠感覚 = 視覚、聴覚

この事例 = 買い物、帰属意識、妹・母親との活動 (対人的社会活動かな?)

つまり遠感覚に基づく活動を主に取り組む状態は、近感覚に基づく活動を主に取り組む (もしくは埋没している) 状態よりも快適かつ本人の能力を発揮できている状態とみることができます。

重度の知的障害がある方に有効な視点なので活用してみてください。

## 3 生理的快よりも同一性保持が強い？

それともやりたいことを成し遂げたいタイプ？

## 4 「視線が合うまでは時間を要する」について

### (1) 中心視と周辺視の視点から

自閉症スペクトラム障害の方には、相手と目を合わせるのが苦手な方もいます。そして、中心視ではなく周辺視を多く使っている場合があります。

中心視は分析に有効

周辺視は動体把握に有効

自閉症者の情報統合の障害 (セントラルコヘランス) = 情報処理能力に制限があるとすると周辺視で対象を把握し、時間をかけて中心視を使用することが説明できそうですね。コミュニケーションをとる際の合理的配慮として支援者間で共有しておくとうよいと思います。

(2) 人によって行動を決める傾向について

目を合わせるまでに時間がかかるということは、対人交渉の負担感は大きいことが想定される。そのため、「この人は〇〇する人」を決めておくことが、自分の対人行動をスムーズにする処世術となっているのではないか。

## 5 想定できない対人交渉を回避したい気持ちがあるか???

- ・ 集団の先頭を歩く
- ・ ホール、プールを嫌がる

人がいなくても過去の体験からイメージができている可能性もあるか?

= R I G s (一般化されたエピソードの表象 DN. スターン)

行動レベルだけではなく、想定外のコミュニケーション機会の回避もあるか?

**1月18日**

## 1 コミュニケーションをとる動機づくり

ご本人のしたいこと、使いたい物を支援者が管理することで支援者とのコミュニケーションをとる動機が生まれる。→構造化する。

## 2 拘り(固執する)への支援

(1) 「本当の気持ち」を理解し、解決を図る

(2) 拘る行動を強化しない

拘りは、不安を解消するための自己防衛行動なので、それを否定されると安定するための方法を禁止されると思い、かえって強くこだわることが多い。したがって、制止する、叱る、嫌がるアプローチを最小化し、他のアプローチによる解決をめざす。

(3) 環境調整 = 見えない、開けることができない環境にする

(4) 折り合う

### 【行動レベルでの拘り】

拘っている行動の全てを何とかしようとするのは難しいので、

① 一部分だけ認めて、そのあとの行動は別の行動に移れるように促す

② タイミング

トラブルになる状況が変化するまで、ゆっくりとした行動をとるように手を添えてコントロールする。

③ 反復からの脱出支援

側において(身に着けているものに支援者が触れている状態を続ける

とか、数のカウントを継続するなど) 支援者が期待していることを意識してもらおう。

切り替わるきっかけを提供 (キーワードがあれば活用)

#### 【思考レベルの拘り】

①こだわっている思考の背景を探り「本当の気持ち」からアプローチ

②「認知の歪み」

論破するとかえって自己防衛のための「認知の歪み」が強まるのかを確認して、対処方法を検討する。

③切り替えに成功したら、こだわりからの脱出パターンとして構造化  
= ソーシャルスキルとして別の支援者も活用できるようにする

+

本人も活用できる状態を把握する、活用できるツールを提供する  
= 「わたしのココロの天気図」

(5) 折り合うことが困難な場合

環境をリセットして蓄積した拘りパターンを消去する。

例1 テーブルクロスが変わったら、こだわる行動がなくなった。

例2 部屋が変わったら拘る行動がなくなった。

新たな環境で新たな拘りが構築されていくので「本当の気持ち」に焦点を当てた支援の検討が必要。